

2024 年度(令和 6 年)

事業計画書

社会福祉法人 福寿会

目次

1	法人理念	2
2	基本方針	3
3	理事会及び評議委員会の開催.....	4
4	施設概要	5
5	介護部門	6
(1)	入所・住居系.....	6
①	特別養護老人ホーム	6
②	ショートステイサービス.....	9
③	グループホーム アクル	10
④	軽費老人ホーム	11
⑤	サービス付き高齢者向け住宅	11
(2)	通所系	11
①	デイサービス	11
(3)	訪問系	12
①	訪問介護ステーション	12
②	訪問リハビリテーション.....	12
(4)	居宅介護支援事業所.....	13
(5)	配食サービス.....	13
6	医療部門	15
(1)	平城園診療所	15
(2)	あきしの整形外科クリニック	15
7	保育部門	16
(1)	登美ヶ丘マミーズ保育園	16
(2)	福寿会マミーズ保育園	18

1 法人理念

【法人の基本理念】

1. その人の人権を尊重する
2. その人の自立を支援する
3. その人の心を癒す

【法人の基本方針】

1. 地域福祉の拠点として、地域から信頼される法人を目指します。
2. 利用者から評価される安心できる質の高いサービスを提供します。
3. 人材確保と育成に取り組み、職員の質の向上に努めます。
4. 各種制度や法改正の意思や方向性を見極め、中長期的視野に立った安定した経営を構築します。
5. 財務情報公開、行政の認証制度、苦情解決等の透明性の確保に努めます。

2 基本方針

令和5年度のテーマはアフターコロナ、経営基盤の確立、人材育成でした。

アフターコロナについては、各種イベントや介護施設の面会の再開、地域交流の活性化を進めて参りました。介護施設・保育施設での各イベントを再開し日常を取り戻すべく注力し、また、介護施設の面会も再開いたしました。地域交流の活性化を図るべく、地域の老人クラブへの参加を始めました。感染症対策の方針転換後にも、コロナ、インフルエンザ等の感染症の発生はありましたが、感染の拡大は最小限に抑え込むことが出来ています。引き続き、感染症対策を講じながら業務に取り組んで参ります。

経営基盤の確立については、利用契約の獲得を目的とした立場である相談員の組織化、各事業の予算管理の組織化を行いました。しかしながら、基盤の確立までは至っておらず、引き続き注力して参ります。また、令和5年度中に事業開始した、グループホームアクール、あきしの整形外科クリニックの利用者は増加傾向にあります。グループホームは単月黒字化しました。あきしの整形外科クリニックは引き続き単月赤字ながら、着実にご利用者数が増加しており、年度内の単月黒字を図ります。また、年度中に新事業としてサービス付き高齢者向け住宅グレイス福寿、通所リハビリテーションの開所を計画しています。各事業の稼働に注力して参ります。

人材育成については、オンライン研修体制の強化、全体研修の再開を行いました。また、外国人介護職員の受入れを開始しました。学びの場の拡充と同時に、人に教える機会を創出することで育成に繋げて参りました。

令和6年度のテーマは地域貢献とします。令和5年度に取り組んだ、ご利用者の生活の質の向上、経営基盤強化、人材育成は引き続き重要な課題であると認識しています。令和6年度は、地域交流を通じたご利用者の生活の質向上、地域循環を意識した経営基盤構築、地域貢献を通じた人材育成等、地域貢献という目的意識を持った各活動により組織の発展を進めて参ります。

3 理事会及び評議委員会の開催

1) 2024年度における理事会を次のとおり開催する

開催月	主な審議事項
2024年6月	2023年度 事業報告・決算報告
2025年3月	2024年度 補正予算 2025年度 事業計画・収支予算
適宜開催	必要に応じて

2) 2023年度における評議員会を次のとおり開催する

開催月	主な審議事項
2024年6月	2023年度 事業報告・決算報告
2025年3月	2024年度 補正予算 2025年度 事業計画・収支予算
適宜開催	必要に応じて

3) 選任解任委員会を、次のとおり開催する

開催月	主な審議事項
適宜開催	評議員の選任及び解任

4) 監事による監査

- ① 監事は理事会に出席し、理事会の運営状況、法人の財産の状況を監査する。
- ② 監査報告書を作成し理事会及び奈良市長に報告する。

4 施設概要

施設 1

名称	平城園	住所	奈良市秋篠町 1567
実施事業	事業所名		
特別養護老人ホーム	特別養護老人ホーム平城園		
ショートステイ	平城園ショートステイ		
グループホーム	グループホームアクール		
サービス付き高齢者向け住宅	ヴィラ秋篠		
デイサービス	奈良デイサービス		
デイケア	平城園デイケア（名称仮）		
訪問介護ステーション	平城園ホームヘルプステーション		
訪問リハビリテーション	平城園訪問リハビリテーション		
居宅介護支援事業	平城園在宅介護支援センター		
配食サービス	福寿会配食サービス		
内科診療所	平城園診療所		
整形外科診療所	あきしの整形外科クリニック		
企業内保育所	福寿会マミーズ保育園		

施設 2

名称	ならやま園	住所	奈良市山陵町 1085
実施事業	事業所名		
特別養護老人ホーム	特別養護老人ホームならやま園		
ショートステイ	ならやま園ショートステイ		
デイサービス	ならやま園デイサービスセンター		
訪問介護ステーション	ならやま園ホームヘルプステーション		
居宅介護支援事業	ならやま園居宅介護支援事業所		
軽費老人ホーム	ケアハウス ニューライフならやま		

施設 3

名称	登美ヶ丘マミーズ保育園	住所	奈良市中登美ヶ丘五丁目 34-1
実施事業	事業所名		
認可型保育所	登美ヶ丘マミーズ保育園		

5 介護部門

(1) 入所・住居系

① 特別養護老人ホーム

a 特別養護老人ホーム平城園

令和5年度のテーマは「働き甲斐のある職場作り」「人材育成」であった。新施設開設による職員の採用が活発になり、初めての外国人材の雇用など、人員の安定確保に取り組んできた。

令和6年度は、その人材が定着するよう引き続き「働き甲斐のある職場作り」「人材育成」に加え、策定が義務化となった事業継続計画に基づき大規模災害や感染症対策への備えを強化し「防災対策の推進」に取り組んで参る。

➤ 介護部門（従来型特養）

■ 豊かな生活を提供できる体制づくり

コロナ禍以前同様の行事やレクリエーションの提供。

I C T機器を活用した業務の効率化の推進。

■ 人材育成・雇用の安定化・職場環境づくり

管理職・介護職員の育成と効果的な人事異動による組織活性化。

外国人雇用への参画等をはじめとする人材確保。

■ 災害・感染症に対応できる体制づくりの強化・計画の充実

災害・感染症BCPの周知と実地訓練の計画的実施。

有事の福祉拠点と成るべく、地域との連携強化。

➤ 介護部門（ユニット型特養）

■ 個別ケアの推進 ～ 一人ひとりの思いに沿った援助の実践

個性を尊重し、丁寧、適切なチームケアに取り組み、入居者皆様が自律した生活が送れるよう目指す。

ユニットケアの理解、理念に沿った生活支援を実践できる人材を育成する。

■ 環境づくり ～ 安全で、居心地の良いすまいの空間づくりを継続する。

家庭的な共同スペース創りに取り組み、入居者皆様の居場所になるよう目指す。

入居者、職員共に安全、安心に過ごすため、福祉機器導入の提案と試行。

➤ 看護部門

■ 利用者の人権を尊重し「安心・安全」「納得・信頼」のある看護を提供する。

■ 利用者の健康管理、異常の早期発見を行い、適切な医療が提供できるよう努める。

■ 平常時の感染症対策を徹底し、感染拡大防止するに努める。

- 利用者・家族に安心して頂ける看取り介護の提供を行う。
- 褥瘡発生予防、発生時の早期対応の体制を整え援助を行う。
- 介護職員との連携による医療的ケアの実施。
- 看護実習施設として、看護学生の実習を受け入れ人材育成に取り組む。

➤ 機能訓練

- 利用者及び家族の意向を尊重し、主観的及び客観的評価を基に個別機能訓練計画書を作成する。
- 身体機能の維持・向上の為に科学的根拠に基づいた機能訓練を実施する。
- 多職種連携の下、「身体機能」「生活機能」の維持・向上を図る。
- 個々の日常生活動作能力に応じた介助を行い、残存能力を発揮する事で身体機能の維持・向上を図るよう、介助方法の指導・伝達を行う。
- 体動が困難な利用者には適切なポジショニングを行う。関節拘縮、褥瘡予防を図り、より安楽な姿勢で過ごせる環境調整を行う。

➤ 栄養管理部門

- 施設は利用者の生活の場である事を意識し、家庭的で各個人の嗜好も考慮し、旬の食材を盛り込んだ行事食、お誕生日食、選択食、好み食の実施により季節の移り変わりや、生活の中に変化と楽しみのある食事を提供していく。
- 給食会議等で、職員との連携を強化し、ニーズの把握に努める。又、新型コロナウイルス感染症の状況をみながら、防止対策を行い、フロアごとのランチパーティーやおやつパーティーなど、楽しんで頂けるサービスを実施する。
- 栄養ケアマネジメントの実施、療養食の提供により利用者の栄養改善に取り組んでいく。
- 非常食について、すべての職員が内容を把握して、いざという時に活用できるように備える。
- 企業内保育所で子供の成長には個人差が大きい為、それに伴った食事を提供できるよう保育園の食事の見直しを行う。

➤ ボランティア部門

- 令和5年度はボランティアを受け入れ、少しずつだが活動を再開することができた。利用者の日常の中に楽しみや癒しの場となるサービスが増えるよう継続した活動に努める。

➤ 介護サービス支援室

- 利用者にとって安心・安全な生活を第一に支援を行う。
- コロナ以前同等の外出や慰問等の機会を提供し、利用者の生活が豊かな物となることを目指す。
- 職員の研修については本年度もWEB研修を基本としながらも、外部講習への参加促進と、対面での伝達講習の機会を増やし、職員の質の向上を目指す。

b 特別養護老人ホームならやま園

令和5年度においても新型コロナウイルス感染症の発生により、利用者、職員が感染したが、過去の経験を活かして最小限で抑える事が出来た。また第5類へ移行したことにより、これまでの制限も緩和され、イベントや行事の実施、面会再開と、あたりまえの生活を取り戻すために動き出した一年であった。今年度も、利用者を感染から守りつつ、生活の場を豊かに彩れるような生活の援助に取り組んでいきたい。

➤ 介護部門（従来型・ユニット型特養）

- 認知症ケアの充実について、利用者個々の生活歴や病歴、身体の状態を把握・理解すると共に、心の思いに寄り添った援助を目指し、生活の場として質の向上・過ごしやすい環境作りを目指す。
- 人材育成・職場環境について、施設内外の研修の充実を図り職員のスキルアップに繋げる。働きたい職場・働きやすい職場作りを目指し、介護の仕事に魅力ややりがいに繋げることで、人材の安定を目指す。
- IT機器の導入について、引き続きIT機器を効果的に使用し、介護職員の負担軽減、業務の効率化を図ると共に、記録ソフトを使い、書類業務時間の削減を目指す。
- 災害・感染症への対応について、地域の防災拠点としての役割を果たせるように、大規模災害の対策を講じる。奈良県大規模災害対策チーム（DWAT）や行政機関、地域の方とも協力体制を築き、奈良市福祉避難所の設置に際しての防災訓練を行う。感染症についても、日頃から感染症予防・対策の見直しを行い、利用者の安全・安心の確保を目指す。

➤ 看護部門

- 家族・介護職・医療職で話し合いを重ね、本人と家族が納得できる看取り介護を提供する。
- 感染症の予防と、発症時には全職種で統一した対応ができるように技術・知識の研鑽に努める。
- 衛生管理者と産業医が連携し、職員のメンタル・フィジカルヘルスを守る。

➤ 機能訓練

- 利用者及び家族の意向を尊重し多職種連携の基、その人らしい生活が送れるよう、また安全安楽に過ごせるよう「身体機能」「精神機能」の維持・向上を図る。
- 個々の日常生活動作能力の維持・向上が図れるよう、介護士と連携し「生活リハビリ」のプランを決定する。また状況に応じて「生活リハビリ」の見直しを行う。
- 多職種連携を行い介護業務支援ソフト「ほのぼの」を使用し「個別機能訓練計画書」を作成する。
- 主観的及び客観的評価を行い科学的根拠に基づいた訓練を行う。
- 個々の日常生活動作能力に応じた介助を行い、残存能力を発揮する事で身体機能の維持・向上が図れるよう介助方法の指導・伝達等を行う。

➤ 栄養管理部門

- 栄養ケアマネジメントの実施や療養食の提供により、多職種協働で利用者の健康を維持して頂けるよう取り組む。個々の利用者の嚥下状態や身体状況に適した食事や嗜好を考慮した食事の提供に努める。
- 喜ばれる食事の提供に努める。家庭的で季節感のある食事や、日常生活に変化や楽しみを持って頂けるよう、行事食、誕生食（1回/月）、好み食（1回/月）、選択食（1回/週）の提供を行う。感染症の状況を見ながらおやつレクリエーションを実施する。
- ミールラウンドや給食会議、職員との情報交換等により、利用者の嗜好や嚥下状態等を把握し食事内容の向上に努める。
- 食中毒予防や感染症対策など、安全な食事の提供に努める。研修会への参加や施設内食中毒予防研修も行う。
- 非常災害時に備えて非常食を使い捨て容器と共に3日分備蓄し、無駄なく入れ替えを行う。非常災害時に全職員が活用出来るように備える。

➤ ボランティア部門

- 令和5年度はケアハウスやデイサービスでのイベントや移動スーパーに関しての手伝い、利用者のおやつ販売などの援助に加え、慰問の受け入れも再開することができた。引き続き利用者を癒せる援助を行ってきたい。

② ショートステイサービス

a 平城園ショートステイサービス

前年度に引き続き安心してご利用頂けるように支援していきたい。ご利用者の在宅生活継続とご家族の負担軽減に、より一層寄与できるよう事業の安定稼働、サービスレベルの向上を図る。

- ▶ 感染拡大予防策を徹底し、ご利用者・ご家族の在宅生活が継続できるようサービスを提供していく。
- ▶ ご利用者・ご家族と信頼関係を構築し、個々の要望や不安点に対応していただけるよう都度サービスの提供方法について検討する。
- ▶ ならやま園ショートステイサービスと連携を図り、常に安定したサービスの提供を行う。

b ならやま園ショートステイサービス

令和5年度も日々変化する、求められるニーズに対して、より良いサービスの提供・質の向上に努めた。また、感染対応により一時的に入居者を含む利用者の生活が制限されることもあったが、“ウィズコロナ”の中、安全にショートステイを利用頂けるよう支援・援助をおこなった。

しかしながら、令和6年1月より職員体制の都合によりショートステイ縮小の対応をとっており、在宅で生活されている方の支援・援助の在り方を改めて考える機会となっている。再開に向け、職員の安定的な確保・人材育成により体制の再構築を図り、将来に渡り安心してご利用いただけるショートステイサービスに生まれ変わっていくことを目指す。

- ▶ ショートステイサービス体制の再構築をはかる。
 - 将来に渡り安心してご利用頂けるサービスの体制強化。
 - 職員の確保、人材育成、介護サービスの質の向上。
- ▶ 体制の再構築にあたり、各事業所と連携し、既存利用者の利用再開の依頼、新規利用者の受け入れを行い、安定稼働を目指す。
- ▶ 引き続き、感染症対策を含めた共通理解を深め、安全な受け入れを提供する。

③ グループホーム アクール

令和6年度には開設2年目を迎えるが、より深みのある認知症ケアの充実、サービスの質の向上を図るとともに、初年度からの取り組みとして地域に根付いたホームづくりを目指していきたい。

- ▶ 認知症ケアの充実
 - 利用者個々のニーズや心身の状態、またご利用者の生活歴や家族歴、歩んできた人生の歴史を尊重し、一人一人に寄り添った個別支援、より専門性をもった認知症ケアの提供に努める。
 - 職員個々のスキルアップの機会（施設内外における研修や会議、個別面談等）を確保することで、サービスの質の向上に努める。

- ▶ 地域に根付いたホームづくり
 - 開設後、定期的に運営推進会議を開催している。引き続き運営推進会議を通して、ホームの情報を発信するとともに、地域とのつながり、特に自然災害発生時における地域との連携体制の構築に努める。
- ▶ 安定した施設運営を目指す
 - 法人一丸となり新規職員の雇用を進めることで、2 ユニット目の早期開設、2 ユニットの安定稼働（18床の満床）を目指す。

④ 軽費老人ホーム

ケアハウス ニューライフならやま

コロナウイルス感染が2類から5類に分類されたことにより、生活環境の改善を検討し少しずつ日常生活を取り戻して頂けている。しかし、感染対応により利用者の ADL 及び活力の低下が見られ、以前のような集団での活動が限られてきていることから、今年度は個別又は少人数での対応を取り入れていきたい。

自立支援を目標とし、生活環境を整えご希望に応じた生活の場として、充実した日常生活を楽しんで頂けるような援助に心掛ける。

(毎月行事に追加として)

- ・ 季節行事のイベント開催（外出等も含む）。
- ・ 個別対応による外出企画。

⑤ サービス付き高齢者向け住宅

a サービス付き高齢者向け住宅ヴィラ秋篠

- ▶ コロナ以前に実施できていたサービスやイベントについては第一四半期のうちにすべて復活させる。
- ▶ また、より発展的な内容に昇華できるように、上半期の内に職員一丸となって取り組む。ケアハウスやアクールとの連携についても同様に進める。
- ▶ 大規模災害における BCP については訓練の強化を含め従来の内容を第一四半期の内に見直し、より現状に即したものを第三四半期までにマニュアル化し整備する。
- ▶ 地域や入所者のニーズを正しく拾い上げ、支援につなげられるよう、配置職員間の体系づくり、育成に努める。

(2) 通所系

① デイサービス

a 奈良デイサービスセンター

- ▶ 営業力の強化
 - 各部署の相談員と連携し、デイサービス以外の部署状況を把握し説明できる

ようにして、施設全体でご利用者を支えられるようにする。

広報誌やブログ使い体験利用・見学を積極的に受け入れ、ご利用者・ご家族様へ奈良デイサービスを知ってもらう。

➤ ICT の活用

ICT を活用し業務簡素化・ペーパーレス化を進めていき、そこで出来た時間をご利用者への関りへ繋げていく。

➤ 保育や住宅部との交流

保育園の慰問や地域貢献活動などイベント活動を一緒に参加し交流を持つ。

b ならやま園デイサービスセンター

➤ 業務の簡素化、効率化を図りご利用者の満足度、信頼獲得の為より良いサービス提供を目指す

➤ 新規利用者獲得、利用の定着化を目指し、また広報やHP等を利用しサービスの見える化を進める。

➤ 外出や季節行事を開催し利用者が住み慣れた地域で楽しみや利用者の生きがい、意識したサービス提供を目指す。

➤ 引き続き必要最低限の感染対策を行いながら利用者、職員共に安心して過ごせる環境を整える。

(3) 訪問系

訪問介護ステーション

a 平城園ホームヘルプステーション

b ならやま園ホームヘルプステーション

➤ ご家族との関りや他事業所との連携を深める。ケアプランに基づき、利用者の尊厳を尊重し、個別の状況に応じた質の高いサービスの提供に努める。

➤ 訪問介護員の高齢化に伴い、新たな人材確保に努め、安定した利用者へのサービスの提供を継続する。

➤ ペーパーレス化に向けた取り組みとして、訪問介護員の記録アプリへの登録、ご利用者への請求書のアプリ化をすすめる。

① 訪問リハビリテーション

a 平城園診療所訪問リハビリテーション

b あきしの整形外科クリニック訪問リハビリテーション

利用者及び家族の意向を尊重し、可能な限り自立した在宅生活を営む為に必要な身体機能・能力の維持向上を図る。

➤ 患者様や利用者様・その御家族様・地域の事業所へ情報を発信することより、本事業の認知度を上げ新規利用に繋げる。

➤ 利用者一人一人を主観的及び客観的に評価した上で、適切な目標を設定し計

画に基づいた訓練を行い、QOLの維持・向上に努める。

- 利用者や家族に対し、療養上必要とされる事項等について丁寧に説明する。
- 医師・介護支援専門員と連携し、地域包括ケアの一員として利用者の日常生活の自立と社会参加を促進する。

(4) 居宅介護支援事業所

a 平城園在宅介護支援センター

- 令和6年度の目指すべき方向性

今年度は令和5年度から目指してきた方向性（ケアマネジャー各自が公正中立、質の高いケアマネジメントを提供）を継続し、各地域包括支援センターとの連携を深めながら、特定事業所加算Ⅱを算定する事業所としての信頼を維持し、選ばれる居宅介護支援事業所のケアマネジャーとして、各自のさらなるスキルアップと人材育成に努める。と同時に、ケアマネジャー各自のメンタルヘルス対策を充実させ、心身ともに健康でやりがいを持って働き続けられる環境を整える。

b ならやま園居宅介護支援事業所

令和6年度の制度改正に伴い、加算要件に見合った居宅介護支援を積極的に行っていく。又、医療と介護の連携の質をより一層高めるとともに、ヤングケアラー・障害者・生活困窮者・難病患者等、他制度に関する知識を深めながら、利用者が適正にサービスを選択していただける利用者本位の支援を継続する。

- 地域包括支援センターとの連携を更に深め、支援困難ケースの積極的な受託に努める。
- 業務の効率化および情報共有に努め、居宅介護支援事業所としてのケアマネジメントの質の向上を目指す。
- 公正中立な公正中立なサービスの選択および情報の開示等により、居宅介護支援の適正化を図るとともに、利用者の意思決定支援を尊重し利用者本位の支援に努める。
- 認定調査業務の受託（ケアマネ1人当たり月4件を目指す）

(5) 配食サービス

- 事業を継続していくために給食業者との話し合いを含め検討を重ねる。
- 市の委託業者として、本業を継続させるために現状を正しく伝え、話しをする場を重ねるように努める。
- 給食業者とはより綿密な連携を構築できるよう連絡方法等の見直しを図り、給食会議への配食サービス担当者の出席も検討を進める。
- 新規獲得のための営業活動については、コーディネーターの教育という点か

ら具体的に計画し進められるよう、第一四半期までに準備を整え以降積極的
に行動に移す。

6 医療部門

(1) 平城園診療所

利用者の視点に立った気配りができる、信頼される医療を提供します

- 法人事業所の利用者と職員の健康管理及び疾病治療・予防に努める。
管理医師、診療所看護師と特養看護師が連携し、利用者の日常的な回診を実施し、重症者への対応は関係医療機関と連携を図りスムーズな対応を行う。各種ワクチン接種などの感染予防、定期健康診断の実施による疾病の早期発見に努める。職員の健康管理について、産業医と衛生管理者との連携を図り、法人全体の衛生向上に貢献する。

(2) あきしの整形外科クリニック

- 地域の救急・整形外科診療のニーズにこたえるとともに高齢者の視点に立った信頼される医療の提供を目指します。
- 受診してよかったとだけいただけるよう患者さんの視点に立った医療を提供します
- 開設予定のデイケアと連携を図りながら高齢者の健康寿命を援助します。

7 保育部門

(1) 登美ヶ丘マミーズ保育園

新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、園では通常保育が再開した。引き続き感染予防対策は万全にしながらも園を開き、保護者や地域の方々に園の保育・教育を理解してもらう。保育内容では「子どもを真ん中」に据え、主体性を大切にされた保育を行う。0歳児の早期獲得を目指し、園庭開放やマミーズ広場を実施し園の魅力を発信していく。法人の高齢者の方々や地域の中高生との交流・イベントへの参加も随時取り入れながら経験値を増やし、豊かな心を育てていく。常に「子どもにとってどうなのか」を考えながら保育を構築し「明日が待たれる楽しい保育園」を目指す。

▶基本情報

- (対象) 0歳児(6か月～)～就学前
(保育標準時間) 7:00～18:00
(保育短時間) 8:30～16:00
(時間外保育時間) 18:00～19:30(平日のみ)
(定員と在園児数)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
定員	9	12	12	19	19	19	90
在園児数	18	18	20	19	20	16	112

(在園児数は 2月現在)

▶保育理念、保育目標

- (基本理念) ・子どもの基本的人権を尊重する
・子どもの自立を支援する
・子どもの心を癒す
- (保育目標) ・心身共に丈夫で逞しい子
・優しい心の子
・豊かでのびのびした子
・挨拶ができる子
・創造力のある子

▶保育内容

①養護と教育を一体化した保育

- ・0・1・2歳児では、生命の保持及び情緒の安定を図る養護的なケアを十分に保障できるよう一人ひとりの発達の特性に於いて丁寧な保育に努める。
- ・3・4・5歳児は、幼児が主体的に遊ぶための環境構成や援助の在り方を探る。
- ・各クラス、年に1回以上保育を公開し、職員間で学び合い、保育の質の向上を目指す。

②食育・給食

- ・マミーズ農園で野菜を育て、収穫した野菜は給食で頂く。「食べ物への興味」と「感謝」の気持ちを育む。

③安全・安心の園

- ・子どもの命を守ることを最優先にする。
- ・危険なことに気付いた時は子どもの危機回避を優先し、相手に伝える（不適切保育）
- ・危険個所の点検を日々行い、危険個所はすぐに対策を講じる。
- ・毎月1回の避難訓練を行い、災害時・緊急時・不審者対応に冷静かつ迅速に行動できるようにする。

④外部講師の招聘

- ・外部の専門講師を招き、英語教室・体操教室・サッカー教室を行う。
- ・課外保育として放課後イングリッシュスクール・ダンス教室・スポーツ教室を行う。

▶子育て支援

- ・園庭開放（地域の未就園児）、マミーズ広場（0歳児親子・妊婦）の実施。

▶地域交流

- ・法人高齢者施設との交流
- ・国際中学校の保育実習、国際高校家庭科クラブとの交流
- ・地域のイベントへの参加

▶保健衛生

- 定期健康診断（年2回） 歯科検診（年1回） 眼科検診（年1回）
- 職員定期健康診断（年1回） 検便検査（年12回） 身体測定（年12回）

▶年間会議・研修

- 職員会議（月1回） 給食会議（月1回） 処遇会議（月1回）
- リーダー会議（月1回） 園内研究会（各クラス1回） 語り合い研修（月1回）

▶保育行事と主旨

- ・入園式・卒園式・誕生日会：子どもの成長の節目を祝う行事
- ・七夕・節分・もちつき・ひな祭り：日本に伝わる伝統的な行事
- ・運動会・夏祭り・作品展・こども発表会・保育参観：成果や成長を発表する場
- ・遠足・野菜育て・芋ほり・イベント参加：体験や経験を広げる場
- ・高齢者や中学・高校生との交流：社会性を育てる。優しさや思いやりを育む。

(2) 福寿会マミーズ保育園

従業員の働き方に応じた柔軟な保育サービスを提供し、企業連携先のお子様に対しても同様のサービスを提供する。又地域枠を設け、積極的に地域の子どもを受け入れ定期利用の空き定員を利用した、一時預かりサービスを行う。

- 季節を通して安全で楽しい保育が提供できるようにする。
- 小規模ならではの家庭的でゆったりとした雰囲気の中、子ども一人一人に細やかな保育が行き届くようにする。
- 子ども達と保育士の信頼関係をじっくりと育てる。
- 子ども達の成長に応じた支援を提供する。
- 異年齢交流を中心とした、縦割り保育を取り入れ異年齢に対する思いやりと、社会性、協調性を育む。
- 施設交流や、手作り玩具を通じて「ありがとう」の気持ちとお年寄りを敬う気持ちを育む。
- 保護者の育児負担をサポートしていけるように、保護者が気軽に相談とお預かりができる環境をつくる。

■ 年間行事

	主な行事		主な行事
4月	入園	10月	内科検診・マミーズ祭り
5月	子どもの日・内科検診・個人懇談	11月	個人懇談
6月	歯科検診・歯みがき指導	12月	クリスマス・お餅つき
7月	七夕・水遊び	1月	お正月
8月	不審者訓練	2月	節分・不審者訓練
9月	施設交流	3月	ひなまつり